

抗 MAGE-G1 / Necdin-like 2 抗体, ウサギ抗血清 (MG1)

74-114 100 µl

保存: 4°Cまたは-20°Cで送付、-20°Cで保存

抗原: リコンビナント MBT-融合マウス MAGE-G1 (アミノ酸 No. 1-279).

形状: 0.05% sodium azide 添加ウサギ抗血清

反応性: マウス、ラット、ヒトの MAGE-G1

用途:

1. ウェスタンブロッティング (1/3,000-1/1,000 希釈)
 2. 免疫沈降
 3. イムノアフィニティ精製
- その他の用途は試されていない。

背景: **MAGE-G1 (melanoma-associated antigen G1** または **necdin-like 2)** 遺伝子は **necdin** 相同タンパク質をコードしている。 **MAGE-G1** 遺伝子は **necdin** 遺伝子同様、ヒトでは proximal chromosome 15q 領域に位置し、この領域はゲノム・インプリンティングや種々の神経疾患と関連している (文献 1)。これらの発見より、**MAGE-G1** は脳の発達に関与しており、その異常は神経発達障害を起こすと考えられているが、**MAGE-G1** の生化学的な性質や機能はほとんどわかっていない。 **MAGE-G1** は **necdin** と同様、細胞周期停止を誘導し、細胞増殖を抑制する。**MAGE-G1** は **necdin** 同様、転写因子 E2F1 や p75 neutrophin receptor (p75NTR) に作用し、脳発達段階における cell viability をコントロールしていると考えられる (文献 2)。マウス **MAGE-G1** に対する抗体 (MG1 と命名) がウサギで作られた (文献 2)。

データリンク: Swiss-Prot [Q9CPR8](#) (マウス), [Q96MG7](#) (ヒト)

文献: この抗体は文献 2 で作られ、用いられた。

1. Chibuk TK *et al* (2001) "A **necdin/MAGE-like** gene in the chromosome 15 autism susceptibility region: expression, imprinting, and mapping of the human and mouse orthologues" *BMC Genet* **2**: 22 PMID: [11782285](#)
2. Kuwako K *et al*. (2004) "Necdin-related MAGE proteins differentially interact with the E2F1 transcription factor and the p75 neutrophin receptor" *J Biol Chem* **279**: 1703-1712 PMID: [14593116](#)

関連製品: [#74-100](#) anti-Necdin antibody, [#74-112](#) anti-MAGE-D1/Dlxin-1/NRAGE antibody

次ページへ

図1 この抗体を用いた MAGE-G1 のウエスタンブロッティング (文献2)

種々の神経発達段階における P19 cell の whole cell lysates をウエスタンブロッティングにかけ、E2F1、p75NTR、necdin、MAGE-G1 (G1)を解析した。UN は未分化 P19 cell; RA は retinoic acid で処理した aggregated cells; PN は enriched postmitotic neurons。

P19 embryonal carcinoma cells は神経分化に際して necdin (43 kDa)、MAGE-G1 (32 kDa)、E2F1 (58 kDa)、p75NTR (68 と 75 kDa) を発現した。MAGE-G1 の発現レベルは retinoic acid 処理 P19 cells において最高であった。

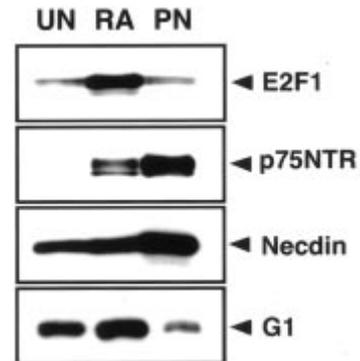


図2 抗MAGE-G1 抗体IgGを用いたイムノアフィニティ精製 (文献2)

E2F1、p75NTR と MAGE-G1 との endogenous 複合体検出

retinoic acid 処理した P19 cell の lysate を抗 MAGE-G1 IgG (α G1 IgG) または preimmune IgG (Preimmune IgG)イムノアフィニティカラムにかけた。結合したタンパク質を抗 E2F1、抗 p75NTR、抗 MAGE-G1 (G1)抗体でウエスタンブロットした。

分化した P19 cell において MAGE-G1 は E2F1、p75NTR と endogenous な安定複合体を形成していた。

